

■ 施策評価シート

施策番号	14-01-①	まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
		分野	環境
		基本方針	良好な環境の保全と創出
施策名	自然環境の保全		

施策の概要

良好な環境を次世代に引き継ぐため、身近な自然に興味や関心を持っていただくための「いきもの調査」や良好な自然を維持している地域を保全する取組等を市民・団体・事業所等とともに進めます。

成果指標(単位)	自然環境保全地区(地区数)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	17	17	18	18
実績値	16	16	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

「草津市の良好な環境保全条例」に基づき、残された自然環境を少しでも多く保全し、次世代に継承すべく保全地区対象となる地区を検討したが、新規の指定には至らなかったものの、現存の地区については管理者等がより柔軟に、利用しやすいよう助成制度を見直すなどし、良好な環境の保全に努めた。

施策の達成度評価

自然環境保全地区や保護樹木について、市ホームページやパンフレットによる周知や、「いきもの調査」を通じて自然環境を残していく大切さを知っていただく機会を創出した。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方

新たな自然環境保全地区の指定へ向けた取り組みを進めるとともに、自然環境保全地区への助成、保護樹木の健康診断や補助金交付のほか、「いきもの調査などを通じて市民の身近な自然への興味関心を醸成し、市域の良好な自然環境の保全に努める。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
自然環境保全啓発推進事業	環境政策課	○	市域における良好な環境を保全した。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
環境審議会運営事務	環境政策課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

施策番号	14-01-②	まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
		分野	環境
		基本方針	良好な環境の保全と創出
施策名	環境学習の拡充		

施策の概要

環境学習等に関わる様々な情報の提供や発信、環境学習に取り組む人・団体等の活動支援を図りながら、市民・事業者・行政等の連携を拡充し、市全体のエコミュージアムの取組を推進します。

成果指標(単位)	こども環境会議の参加団体数(団体)				
	平成28年度 (※基準値)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	57	60	63	65	
実績値	53	57	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

平成29年度は、前年度に対し4団体増加し、目標値を達成することができた。また、市内の全小学校に参加いただくことができた。

施策の達成度評価

環境基本計画に基づき、環境学習社会づくりとして、『環境学習教材の貸し出し』や『環境学習への講師派遣』、「子どもと大人が環境について議論する場」「子どもと大人が活動を発表・交流する場」である『こども環境会議の開催』など、施策の目標達成に向けて事業を実施した。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方

『環境学習教材の貸し出し』や『環境学習への講師派遣』の内容を充実させるとともに、『こども環境会議』は、より交流・情報交換が活発になるよう、実行委員会において『こども環境会議』の内容を充実させるための更なる検討を行い、成果指標の目標値達成に向けて、多様な企業や団体等へ参加の呼びかけを行う。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
環境学習推進事業	くさつエコスタイルプラザ	○	教材貸出事業や講師派遣事業の件数については横ばい、或いは増加の傾向にあり、学校や地域での環境学習の推進に寄与している。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

施策番号	14-01-③	まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
		分野	環境
		基本方針	良好な環境の保全と創出
施策名	環境汚染、環境負荷対策の促進		

施策の概要

河川の水質等に係る環境調査を継続的に実施するとともに、環境負荷の低減のため事業所等の適切な指導に努めます。

成果指標(単位)	環境管理基準(BOD)の達成状況(達成回数/測定回数)(回)				
	平成28年度 (※基準値)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	24/24	24/24	24/24	24/24
実績値	22/24	23/24	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

平成29年度においては、平成28年度の狼川に引き続き伊佐々川で基準を満足しない結果もあったが、両河川において高い達成率を維持している。かつ、全調査地点において近年の環境管理基準の達成状況は、概ね高水準で推移している。

施策の達成度評価

調査の結果、伊佐々川で1回、環境管理基準を超過し、水質は一定ではないものの、長期的には改善傾向にあると評価できる。今後も河川の監視を行うとともに、特異な状況が確認された際には、随時原因を調査し、流域の事業所指導を継続していく必要がある。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方

河川水質の監視を続けるとともに、環境負荷の低減に向けた事業所等の適切な指導に努める。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
環境調査事業	環境政策課	○	環境管理基準(BDO)を高水準で維持することができる。
事業所等指導事業	環境政策課	○	定期的に事業所へ立ち入り指導を実施するとともに、環境負荷が大きいと懸念される事業所を定期的にパトロールし、積極的に指導・啓発できた。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
流域下水道維持管理費負担金事務	河川課
市街地排水浄化施設維持管理事業	河川課
浄化槽法等指導事業	上下水道施設課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
分野	環境
基本方針	低炭素社会への転換

施策番号	14-02-①
施策名	様々な主体が参画するプラットフォームの拡充

施策の概要

様々な主体が参画するプラットフォーム(基盤組織)である「草津市地球冷やしたい推進協議会」の会員数の増加によるネットワークの拡充を図り、低炭素社会への転換に向けた取組を推進します。

成果指標(単位)	草津市地球冷やしたい推進協議会の会員数(者)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	74	76	78	80
実績値	71	72	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

新たに「愛する地球のために約束する協定」の締結を行った協定会員が1者と、一般会員1者の計2者が増えたが、1者が退会したことから、昨年度に対し1者の増加となった。しかしながら目標値を達成することはできなかった。

施策の達成度評価

草津市地球冷やしたいプロジェクトの推進や各イベントでの啓発活動、先進地視察研修などを草津市地球冷やしたい推進協議会で取り組むことができた。

評価に基づいた平成31年度取組みについての考え方

各種イベントやホームページ、くさつエコスタイルプラザでの啓発展示および市内事業所への訪問の際など、協議会への加入PRを積極的に行うとともに、温暖化対策に資する様々な行動を選択する国民運動「COOL CHOICE」を推進し、低炭素社会への転換に向け、引き続き取組を進める。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

パリ協定の採択及び発効、国の地球温暖化対策計画の策定、国が掲げた国民運動である「COOL CHOICE」の影響により、温暖化対策の取組みの気運が国内のみならず、国際的にも高まっているといえる。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
地域協議会運営事業	くさつエコスタイルプラザ	○	協議会全体で地球冷やしたいプロジェクトを推進し、低炭素社会への転換に向けて取り組むことができた。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
広報啓発活動事業	くさつエコスタイルプラザ

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待通りの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
分野	環境
基本方針	低炭素社会への転換

施策番号	14-02-②
施策名	省エネルギー・新エネルギー利用等の推進

施策の概要

イベントや助成制度等を通じ、省エネ・省CO2の推進、新エネルギー利用等の普及啓発を図り、環境に配慮したまちづくり(スマートエコシティ)に寄与していきます。

成果指標(単位)	イベントにおける省エネ・新エネに係る啓発者数(人)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	1,860	1,920	1,980	2,040
実績値	1,780	2,300	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

市内各所のイベントにおいて、省エネルギーと新エネルギー等に関する啓発を実施し、昨年度実績値および目標値を大幅に上回る結果となった。

施策の達成度評価

宿場まつりや草津エコフォーラム、草津市地球冷やしたい推進フェアなど、様々なイベントにおいて、省エネルギーおよび新エネルギーに関する啓発や周知活動を行った。また、雨水タンク設置費補助金と蓄電池等設置費補助金による省エネ機器等の購入助成を行うことで、省エネルギーの推進を図った。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方

各種イベントにおける啓発活動に加え、くさつエコスタイルプラザでの啓発展示の充実を図るとともに、省エネルギー・新エネルギーの先進事例や国、県の補助制度などの情報を収集し、情報提供の充実を図る。また、ごみの焼却に伴う熱を利用した発電設備がある新たなクリーンセンターのPRを積極的に行う。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

パリ協定の採択及び発効、国の地球温暖化対策計画の策定、国が掲げた国民運動である「COOL CHOICE」の影響により、温暖化対策の取り組みの気運が国内のみならず、国際的にも高まっているといえる。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
エネルギー対策事業	くさつエコスタイルプラザ	○	省エネルギーおよび新エネルギーに関する啓発や周知活動を図ると共に、省エネ機器等の購入助成を行うことで、省エネルギーの推進を図ることができた。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
風力発電施設維持管理事業	環境政策課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
分野	環境
基本方針	資源循環型社会の構築

施策番号	14-03-①
施策名	廃棄物の発生抑制・再使用・資源化の推進

施策の概要

廃棄物の発生抑制と再使用による廃棄物発生量削減の取組と、資源化による処分量削減の取組を推進します。

成果指標(単位)	ごみの資源化率(%)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	21.8	22.3	22.8	23.4
実績値	20.2	19.3	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

資源ごみ量のうち、古紙類が近年減少傾向にあり、平成29年度は前年度に比べ行政回収量が▲102t、集団回収量が▲181tであった。また、全体のごみ量も増加したことから、平成29年度における「ごみの資源化率」は、目標値の21.8%に対して、実績は19.3%となり、目標に達しなかった。

施策の達成度評価

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量(資源ごみ除く)及び事業系ごみ排出量は、共に『草津市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画』の平成33年度目標値(家庭系ごみ430g/人、事業系ごみ285g/人)を達成しているが、家庭系ごみの1人1日あたり排出量は前年度から横ばい(427g/人)で、全体では214t増加の20,664tとなった。また、事業系ごみでは、1人1日あたり換算量で前年度から3g/人増加し、全体では269t増加の13,583tとなった。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方

『草津市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画』に基づき目標達成に向け取り組んでいく。家庭系ごみについては、焼却ごみ類に多く含まれる古紙類の分別の徹底、生ごみの削減を中心に取り組み、事業系ごみについては、引き続き事業所に対するごみの分別徹底や食品残さの削減、資源化に向けた取り組みを進める。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
資源ごみ収集運搬事業	資源循環推進課	○	ペットボトル、空き缶、びん、古紙の定期収集と、乾電池、蛍光灯の拠点回収を実施し、ごみ減量とリサイクルの推進に努めた。
ごみ問題を考える草津市民会議活動補助事業	くさつエコスタイルプラザ	○	市民会議が主催となり、行政との協働により、市内一斉清掃やリサイクルフェアの開催、各種イベントでの啓発等、3Rの推進に努めた。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
ごみ減量化推進事業	資源循環推進課
ごみ減量化推進事業	環境政策課
ごみ減量化推進事業	くさつエコスタイルプラザ
プラスチックごみ資源化処理事業	資源循環推進課
金属ごみ資源化処理事業	資源循環推進課
びん類ごみ資源化処理事業	資源循環推進課
ペットボトルごみ資源化処理事業	資源循環推進課
廃乾電池・廃蛍光灯資源化処理事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※ 施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

施策番号	14-03-②	まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
		分野	環境
		基本方針	資源循環型社会の構築
施策名	廃棄物の適正処理		

施策の概要

適正な収集体制の堅持と新クリーンセンターの整備によって、引き続きごみを適正に処理します。また、同センターを資源循環型社会づくりの拠点として、施設見学者の受け入れや市民活動の積極的な展開を図ります。

成果指標(単位)	排ガス中のダイオキシン類測定結果(ng-TEQ/Nm ³)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	(※基準値)	1.0	0.1	0.1	0.1
実績値	0.026	0.014	—	—	—

成果指標実績に対するコメント

一般廃棄物処理施設の維持管理の技術上の基準を満たすよう施設の運転を行った結果、旧施設の排ガス中のダイオキシン類の測定値は、法令で定められた基準値の5ng-TEQ/Nm³はもちろんのこと、目標値である1ng-TEQ/Nm³も満たすことができた。

施策の達成度評価

旧施設については、これまでどおり適正なごみ処理に努めた。また、新施設については、主にプラント工事を実施し、試運転等による性能確認を経て、平成30年3月16日に本格稼働した。

評価に基づいた平成31年度 of 取組みについての考え方

排ガス中のダイオキシン類の濃度については法令で定められた新施設の基準値(1ng-TEQ/Nm³)の十分の一である0.1ng-TEQ/Nm³を自主基準値として定め、この自主基準値を超過することのないよう、ごみを適正に処理していく。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
ごみ収集運搬事業	資源循環推進課	○	各家庭から排出される廃棄物の定期収集を行うことにより、生活環境の保全に努めた。
廃棄物処理施設整備事業	資源循環推進課	○	新クリーンセンターの整備が完了し、平成30年3月に本格稼働させることができた。
焼却ごみ処理事業	資源循環推進課	○	計画的・定期的な施設の補修や、平成30年3月からの新施設への移行により、ごみ焼却処理施設を適正に維持管理することができた。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
ごみ収集運搬事業	環境政策課
ごみ収集運搬事業	くさつエコスタイルプラザ
広域廃棄物物理立処分場建設費負担事業	資源循環推進課
草津市処分場管理事業	資源循環推進課
湖南広域行政組合運営負担金事務	資源循環推進課
指定ごみ袋購入配布事業	資源循環推進課
指定ごみ袋購入配布事業	環境政策課
ごみ分別啓発事業	資源循環推進課
ごみ分別啓発事業	環境政策課
クリーンセンター管理運営事業	資源循環推進課
クリーンセンター管理運営事業	くさつエコスタイルプラザ
ごみステーション新設改修補助事業	環境政策課
陶器・ガラスごみ処理事業	資源循環推進課
破碎・粗大ごみ処理事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※ 施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■ 施策評価シート

施策番号	14-03-③	まちづくりの基本方針	「心地よさ」が感じられるまちへ
		分野	環境
		基本方針	資源循環型社会の構築
施策名	環境美化の推進		

施策の概要
 ごみの不法投棄防止のため、定期的なパトロール等を実施するほか、市民・事業者・行政等が協力し、環境美化に努めます。

成果指標(単位)	不法投棄ごみ率: 不法投棄ごみ量 / ごみ発生量 (%)				
	平成28年度 (※基準値)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
実績値	0.02	0.02	—	—	—

成果指標実績に対するコメント
 平成28年度と比べ、不法投棄ごみ量は増加(+3.59t)したが、全体のごみ量も増加したため、不法投棄ごみ率は同率となった。

施策の達成度評価
 不法投棄ごみ量は増加したものの、パトロールによる不法投棄発見箇所および投棄発見回数は減少しており、重点地区に対する啓発や、そうきかいしゅうによる不法投棄が放置されたままとなることで起こる不法投棄の誘発の防止など、パトロールによる一定の効果がみられる。

評価に基づいた平成31年度の取組みについての考え方
 事業効果の高いパトロールは引き続き実施するとともに、監視カメラやダミーカメラを有効に活用し、粘り強く不法投棄の解消を目指す。
 また、悪質性が高いと判断した場合は、警察への通報も含め、地域と連携し解決を図る。

施策実績に影響を与えた外的要因その他特記事項

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
不法投棄対策事業	環境政策課	○	不法投棄発見箇所および投棄発見回数は減少しており、パトロール業務の継続や監視カメラ設置が不法投棄の防止につながった。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
不法投棄対策事業	資源循環推進課
放置自動車廃物判定委員会運営事業	資源循環推進課
生活環境対策事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※ 施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。